



【内容】

- 1) てんぽ及びみづきの家の活動報告
- 2) 講演「コロナ禍の子どもを取り巻く環境」

たのうえこうじ
講演者 田上 幸治 (小児科医師)

【講師略歴】

平成11年和歌山県立医科大学卒業後、神奈川県立こども医療センター、東京女子医大などで小児科、小児神経科の研修を行い。現在、神奈川県立こども医療センター総合診療科医長、患者家族支援部長。専門は小児科専門医、小児科神経専門医、てんかん専門医。日本子ども虐待医学会代議員などを務める。
NPO法人子ども支援センターつなぐ代表を務める。



2021年5月15日(土) 午後1:30～4:30
(開場 午後1:00)

会場 やまと芸術文化ホール サブホール
〒242-0016 大和市大和南1-8-1

先着 250人(予約不要) 参加費 無料

主催 認定特定非営利活動法人子どもセンターてんぽ

後援 神奈川県 神奈川県教育委員会 神奈川県社会福祉協議会 横浜市
横浜市教育委員会 横浜市社会福祉協議会 川崎市 相模原市 大和市
t v k 神奈川新聞社 子どもシェルター全国ネットワーク会議(申請中含みます)

ご参加の皆様へ

※新型コロナウイルスの感染状況により開催中止や入場人数制限の可能性があります。お知らせは当法人のホームページで行います。

※発熱(37.5℃)、咳などの体調不良や陽性者との濃厚接触者はご来場をお控えください。検査で入場をお断りさせていただく場合もございます。

※会場ではマスクの着用等の感染症予防対策にご協力ください。

【講演】コロナ禍の子どもを取り巻く環境

コロナ感染は社会に大きなインパクトを与えるました。家庭内の生活が増えるため身体的虐待、性的虐待、DVが増えたと考えられています。養育者の失業とともに貧困や精神的な不安定さが増しました。家族への支援やサポートが不足し、孤立が増したと考えられています。

令和2年度の全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は、1月14,816件(前年比+21%)、2月15,051件(+11%)、3月23,732件(+18%)と例年通り相談件数は増加しておりましたが、緊急事態宣言が出された4月には14,816件(+8%)、5月13,572件(-2%)と減少していきます(児童虐待相談対応件数の動向について(令和2年1月～9月分(速報値))より)。学校などの閉鎖による、家庭外の活動が不足することにより、見守りが不足し、虐待、ネグレクトが発見しにくくなつたと考えられています。子どもは大人とは異なり、自宅での自らの被害をどこかに訴えたり、家庭を飛び出したりはなかなかできません。時には、それは頭痛、腹痛、食欲不振、不眠などの身体症状として現れます。幾つかの症例を提示します。

子どもを取り巻く環境は、貧困、コミュニティーの弱体化、育児不安などにより、深刻化、複雑化しています。コロナ禍はその環境の脆弱さをより際立たせました。行政、教育、福祉、医療など、どこか一つの分野だけが単独で問題を解決することはできません。問題が複雑化、深刻化しているからです。様々な機関が連携しながら、子どもに優しい環境や子どもや家庭を支援できる体制を整えていく必要があります。

こうした視点から、つなぐの設立契機や活動についてもお話したいと思っております。



「子どもセンターてんぽ」とは？

10代後半の子ども達の自立を支援することを目的に設立された認定NPO法人です。

安心して生活できる場所がない子どものための緊急避難施設である子どもシェルターてんぽ(定員男女6名)と、家庭で生活できなくなった子どもたちが共同生活を通して自立のための準備をする自立援助ホームみずきの家(定員女子6名)を運営しています。

私たちは、子どもたちに安全・安心・清潔な住まいとおいしい食事を提供し、利用する子どもの人権を守り、一人ひとりの自立に向けたペースを尊重し、いつも真剣に、ねばり強く、寄り添います。

利用する子どもが望むとき(退所後も)、けっしてその子どもをひとりにはしません。

<http://www.tempo-kanagawa.org/>

*フジテレビ系列のドラマ「さくらの親子両2」、「さくらの親子両3」で子どもシェルターが取り上げられました。

◆会場案内◆

